

報 告 書 抄 録

ふりがな	ぜぜじょういせき							
書 名	膳所城遺跡							
シリーズ名	近江大橋有料道路建設工事（西詰交差点改良）に伴う発掘調査報告書							
編 著 者 名	辻川哲朗・岩橋隆浩・神保忠宏・丸山真史							
編 集 機 関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課			公益財団法人滋賀県文化財保護協会				
所 在 地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号			滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2				
発行年月日	平成25年（2013年）12月17日							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ぜぜじょういせき 膳所城遺跡	しがけん 滋賀県 おおつし 大津市 まるのうちちょう 丸の内町	201	184	34° 59' 47"	135° 53' 40"	20120423 ～ 20120530	271㎡	近江大橋 有料道路 建設工事 (西詰交差点)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
膳所城遺跡	—	縄文時代 (早期末～前期初)		—		縄文土器		
	—	古墳時代～古代		—		須恵器		
	城郭	近世		段差遺構・石垣・ 石組溝・土坑・ 土管		瓦・土器・陶磁器・鉄 器・銅銭・動物遺存体等		北の丸の南北端 に関わる遺構等 を検出
	公園・都市	近代		石垣（桐木）・造成 土等		瓦・陶磁器・ガラス瓶等		
要 約	<p>膳所城は「天下三大湖城」と称され、近江における近世城郭の一例として広く知られてきた。しかし、廃城後、遺跡一帯で都市化が進化した結果、一部を除いて当時の城郭関係遺構は、地表ではほとんど遺存していない。今回の発掘調査は小面積ではあったものの、膳所城築城以前・膳所城築城～廃城期・膳所城廃城後という三つの段階の遺構・遺物を確認することができた。以下に、各段階の概略をしめす。</p> <p>①膳所城築城以前については、遺構は未確認であり、縄文時代・古墳～古代のわずかな遺物のみが出土したにとどまる。しかし、調査地の上位側に当該期の遺跡が存在することを示唆するものである。</p> <p>②膳所城築城～廃城期の成果は、以下の諸点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北の丸の南辺石垣を検出することができた。 ・南辺石垣は上下二段からなり、下段石垣が直角に屈曲するが、絵図との対照作業により、その部分に水門が設置されていたことが推定できた。 ・北の丸北辺推定部において、石垣が削平された痕跡である段差遺構を確認することができた。 ・北の丸内部では、排水路である石組溝1条と、建物にともなう雨落溝1条を検出したが、前者は17世紀中葉頃に埋め立てられており、寛文の大震災にともなう再整備の過程で敷地内の空間区分が変更されたと推定できた。 ・排水路である石組溝内からは、17世紀前半頃を中心とする瓦類、土器・陶磁器類にくわえ、海産魚貝類の遺存体が出土した。 <p>③膳所城廃城後 調査では、北の丸の本来の地表面等は削平によって失われており、その後数次にわたり、盛土・造成がなされ、現在にいたる状況を確認した。</p>							